

Vol.108

院長 関の

Face to Face

2017年 6月 1日発行



腰痛が続くと整形外科などを受診し、レントゲンやMRIの検査をする方も多いと思います。ところが、骨のズレやヘルニアや狭窄、圧迫骨折や転移癌などの異常が特には見られません。と言われる方が85%もいらっしゃるそうです。関節や腰を構成する組織のどこかに原因があると推定できても、痛みの原因を厳密には断定することができないようです。

原因不明の「腰痛」の原因



学会は、この85%の患者さんを「ストレスが原因」と発表しました。私は長年腰痛の患者さんを見ていますが、ストレスは確かに要因ではあるけれど、その一言で突き放すのは少し乱暴な気がします。確かに発端はストレスでしょう。ストレスや疲労の蓄積は交感神経を優位にさせ、そのため身体を冷やします。怒りで身体が冷たくなった経験をお持ち

の方は多いと思います。冷えはまず内臓の動きを悪くし、内臓が動かなくなることで身体のあちこち（特に大きな関節部）にひずみを生じさせます。それが積み重なると腰部を動かす関節の相関関係が上手くいけなくなり、腰痛を引き起こすのではないかと考えています。整形外科では心療内科的治療を勧めるところもあるようですが、その前に相関関係を上手くいくように、関節をほぐす治療を行い、身体が多少楽になってきたところで心的ストレスにアプローチするのが早道かと考えます。

関 修一（せきしゅういち）

健育会 東銀座整骨院・整体院・

鍼灸院 院長

代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトルの「face to face」患者さん自身と向き合っ

て患者さんの症状と闘うことを願ってつけた